公演に向けて練習に励む中島大輔さ

二十二日に名古屋市で開かれる障害者によるアートの祭典「最も自由な人たち」に、筋ジストロフィーと闘う男性が出演する。三重県松阪市の中島大輔さん(三五)。自身の重い障害をテーマに自作した詩を、人工呼吸器をつけた体をベッドに横たえて歌うラッパーだ。「体は不自由。でも、僕は自由」。その喜びを全身でかみしめるために、声を絞り出す。(吉野淳一)

歌う僕は自由だYO

筋ジスのラッパー「僕を見て 僕を聴いて」

自分の生き方は自分で決めろ その生き方で進んでいけばいい

DJの演奏に合わせ、ゆっくりと言葉を継いでいく。題名は「My Bible」(私の聖典)。障害を言い訳にせず生きる信条をつづった。当日はこれを含め、三曲を披露する。

障害が分かったのは四歳の時。小学二年で歩けなくなり、中学三年で座れなくなった。二十二歳で寝たきりになり、同市の障害者支援施設「希望の園」に通い始めた。体の自由を失っても、健常者をねたんだことはない。「でも、呼吸器への視線には長く悩んだ」

夢を持てあきらめるなかなう可能性低くてもやれるだけやってみろ考えている間にも時間は過ぎる

音楽を始めたのは二〇〇三年。仲間に誘われバンドを結成し、ボーカルとして活動した。歌っている間は障害を忘れられた。ところが、音楽を好きになるほど葛藤が生まれた。「本当は大好きなラップをやりたい」

筋ジストロフィーは、次第に筋力が低下する進行性の障害。いつ歌えなくなるか分からない。一〇年、ラッパーとして独立することを仲間に告げた。「リズムに乗せ、障害への思いを自在に表現したかった。悩み抜いた人生を歌いたかった」。芸名は「DAISUKE MASK」(大輔マスク)。呼吸器から取った。

一度見たら忘れられない姿で 誰の前にでも堂々と出て行く

ずっと呼吸器が嫌いだった。見られたくなかった。でも、音楽を始めて気づいた。「歌を歌う僕は、誰よりも自由だ」。障害もアートの一部になった。「僕の外見はインパクトがある。もっと僕を見て、僕の歌を聴いて、僕を知ってほしい」。誇りを手放せば自由を失うと、今は知っている。

イベントは中区新栄のライブ&ラウンジVioで、午後四時開演。中島さんのほか、八団体・個人が演奏や腹話術を繰り広げる。前売り券二千円、当日券二千五百円。ともに夕食込み。問い合わせは希望の園=電05

ラップ 「おしゃべりする」意の英俗語が語源。1970年代から盛んになった黒人発の音楽。韻を踏んだ歌詞をしゃべるように歌うのが特徴。日本でも80年代から歌われ始め、歌詞の合間に「YO」や「HEY」など呼び掛けに使う英俗語を繰り返すことが多い。ラッパーはラップを

公演に向けて練習に励む中島大輔さ

二十二日に名古屋市で開かれる障害者によるアートの祭典「最も自由な人たち」に、筋ジストロフィーと闘う男性が出演する。三重県松阪市の中島大輔さん(三五)。自身の重い障害をテーマに自作した詩を、人工呼吸器をつけた体をベッドに横たえて歌うラッパーだ。「体は不自由。でも、僕は自由」。その喜びを全身でかみしめるために、声を絞り出す。(吉野淳一)

歌う僕は自由だYO

筋ジスのラッパー「僕を見て 僕を聴いて」

自分の生き方は自分で決めろ その生き方で進んでいけばいい

DJの演奏に合わせ、ゆっくりと言葉を継いでいく。題名は「My Bible」(私の聖典)。障害を言い訳にせず生きる信条をつづった。当日はこれを含め、三曲を披露する。

障害が分かったのは四歳の時。小学二年で歩けなくなり、中学三年で座れなくなった。二十二歳で寝たきりになり、同市の障害者支援施設「希望の園」に通い始めた。体の自由を失っても、健常者をねたんだことはない。「でも、呼吸器への視線には長く悩んだ」

夢を持てあきらめるなかなう可能性低くてもやれるだけやってみろ 考えている間にも時間は過ぎる

音楽を始めたのは二〇〇三年。仲間に誘われバンドを結成し、ボーカルとして活動した。歌っている間は障害を忘れられた。ところが、音楽を好きになるほど葛藤が生まれた。「本当は大好きなラップをやりたい」

筋ジストロフィーは、次第に筋力が低下する進行性の障害。いつ歌えなくなるか分からない。一〇年、ラッパーとして独立することを仲間に告げた。「リズムに乗せ、障害への思いを自在に表現したかった。悩み抜いた人生を歌いたかった」。芸名は「DAISUKE MASK」(大輔マスク)。呼吸器から取った。

一度見たら忘れられない姿で 誰の前にでも堂々と出て行く

ずっと呼吸器が嫌いだった。見られたくなかった。でも、音楽を始めて気づいた。「歌を歌う僕は、誰よりも自由だ」。障害もアートの一部になった。「僕の外見はインパクトがある。もっと僕を見て、僕の歌を聴いて、僕を知ってほしい」。誇りを手放せば自由を失うと、今は知っている。

イベントは中区新栄のライブ&ラウンジVioで、午後四時開演。中島さんのほか、八団体・個人が演奏や腹話術を繰り広げる。前売り券二千円、当日券二千五百円。ともに夕食込み。問い合わせは希望の園=電05

ラップ 「おしゃべりする」意の英俗語が語源。1970年代から盛んになった黒人発の音楽。韻を踏んだ歌詞をしゃべるように歌うのが特徴。日本でも80年代から歌われ始め、歌詞の合間に「YO」や「HEY」など呼び掛けに使う英俗語を繰り返すことが多い。ラッパーはラップを